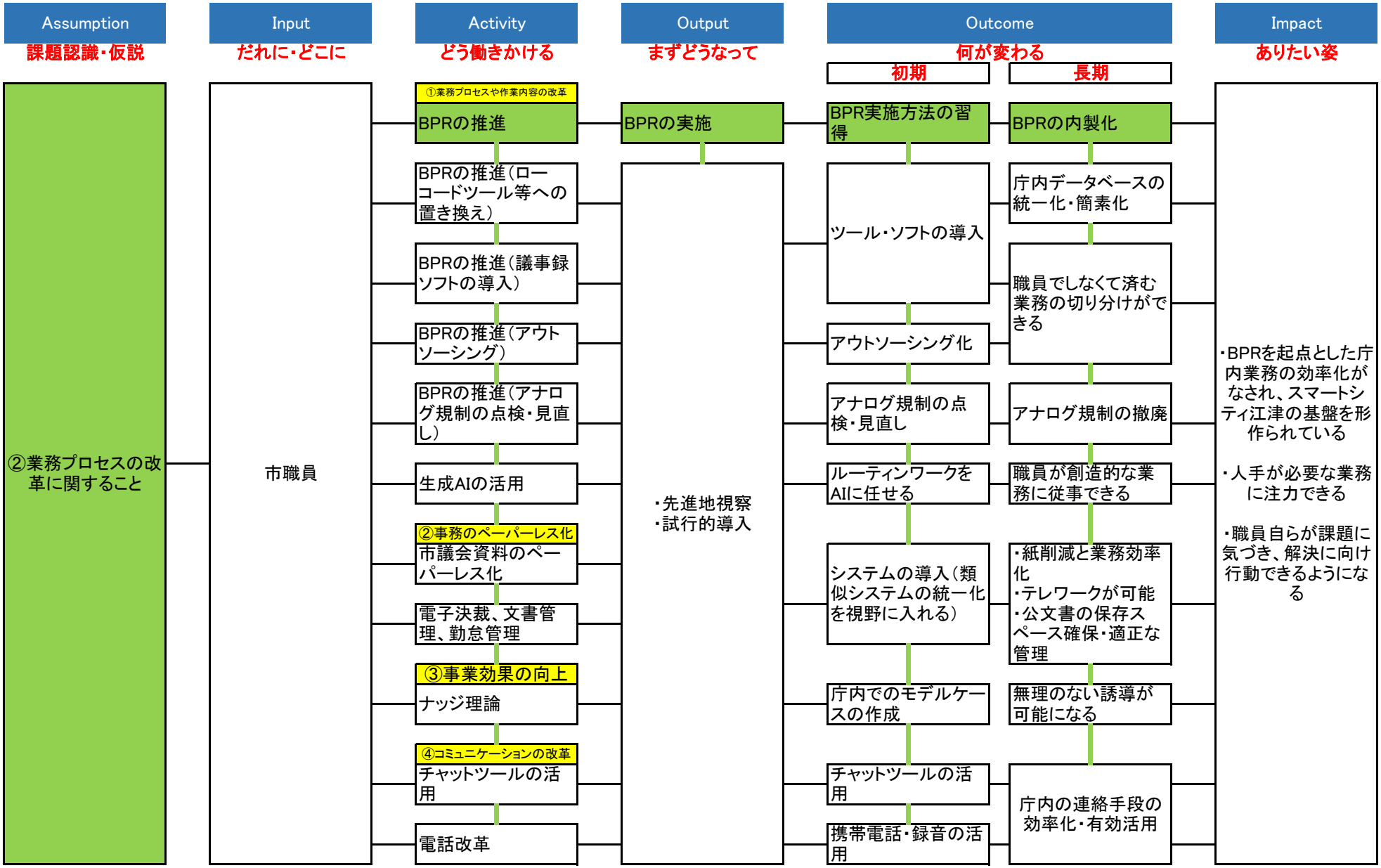
| Assumption | Input | Activity | Output | Outcome | | Impact |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 課題認識・仮説 | だれに・どこに | どう働きかける | まずどうなって | 何が変わる | | ありたい姿 |
| | | | | 初期 | 長期 | |
| ①市民サービスの改革に関すること | 市民・事業者 | ①窓口改革<br>オンライン申請（アプリ等の活用） | ・各業務の現状把握とBPRの徹底<br>・システムの導入<br>・サービス開始周知 | オンラインでの手続きを行う人が出てくる | ・市役所に来なくてもいつでも申請が出来る<br>・市役所に来れば申請の際丁寧な対応をされる | ・市民や事業者が、市役所に来なくても必要な手続きができる。<br>・市民が、市役所に来れば手厚いサービスを享受でき、窓口にかかる時間も短縮する。<br>・情報のやりとりがデータで完結し、事務の迅速化と人為的なミスが削減される<br>・市民とのコミュニケーションの活性化 |
| | | オンライン申請（Web口座振替受付） | | | | |
| | | 書かない窓口 | | | | |
| | | 電子決済（キャッシュレス決済の推 | | 電子決済利用者が増える | 非接触かつスムーズな決済が可能となる | |
| | | リモート窓口 | | コミュニティセンター等で手続きができる | 市役所に来なくても簡単に申請ができる | |
| | | ②マイナンバーカードの利用拡大<br>住民票等のコンビニ交付 | | コンビニで手続きをする人が出てくる | ・市役所に来なくてもよくなる<br>・交付可能時間が長くなる | |
| | | ③情報発信<br>SNS（チャットツール含む）の活用拡大 | | オンライン上であれば24時間問い合わせが可能になる | オンラインが利用できれば、市役所に来なくてもよくなる | |
| | | HP改革 | | HPがわかりやすいとわかる | 市役所に問い合わせをしなくてもよくなる | |
| | | 統合型GISを活用した道路台帳等の電子化と公開 | | 道路台帳等がWEBで確認できる | | |
| | 児童・生徒、その保護者、教職員 | ④教育環境の向上<br>校務支援システムの導入 | | 教職員の負担が減る | 児童の教育の質が向上する | 教育の質が向上する |
| | | 放課後児童クラブの連絡手段の追加 | | 保護者とクラブの連絡が容易になる | 保護者が安心して児童をクラブに預けられる | 保護者・児童が安心してクラブを利用できる |

| Assumption | Input | Activity | Output | Outcome | | Impact |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 課題認識・仮説 | だれに・どこに | どう働きかける | まずどうなって | 何が変わる | | ありたい姿 |
| | | | | 初期 | 長期 | |
| ①市民サービスの改革に関すること | 市民 | ⑤地域交通の利便性向上<br>MaaSの導入 | ・各業務の現状把握とBPRの徹底<br>・システムの導入<br>・サービス開始周知 | 車がなくても自分で行きたいところに行ける | 生活の不安が軽減される | ・交通面での日常生活の不安がなくなる<br>・デジタル社会の中で便利に生活する<br>・持続可能な地域医療体制の構築<br>・発災時の対応を迅速化し、住民の不安を軽減する |
| | | ⑥デジタル人材の育成<br>デジタル人材育成支援 | | デジタル社会への不安が軽減される | デジタルを使いこなす | |
| | | ⑦持続可能な地域医療体制の構築<br>救急医療ICTネットワーク整備 | | 病院への情報共有がスムーズに行われる | 迅速な救急医療の実現 | |
| | | ⑧自治体の情報 システムの標準化 ・共通化<br>基幹系20業務の標準準拠システムへの移行 | | ・制度改正に迅速に対応できる<br>・データ連携がスムーズに行われる | 市役所での手続きが簡単になる | |
| | | ⑨災害対策<br>被災者支援システムの構築と被災者への迅速な支援 | | 統合・連携されたシステムの運用 | 被災者へ罹災証明書を迅速に発行できる | |

| | |
|---|---|
| 「スマートシティ江津」推進の基盤 | ②業務プロセスの改革に関すること:BPRの徹底 |
| | ③人と組織の改革に関すること:「できることから」「行動変革」する職員になる |


Assumption
課題認識・仮説
Input
だれに・どこに
Activity
どう働きかける
Output
まずどうなって
Outcome
何が変わる
初期
長期
Impact
ありたい姿
②業務プロセスの改革に関すること
市職員
①業務プロセスや作業内容の改革
BPRの推進
BPRの推進（ローコードツール等への置き換え）
BPRの推進（議事録ソフトの導入）
BPRの推進（アウトソーシング）
BPRの推進（アナログ規制の点検・見直し）
生成AIの活用
②事務のペーパーレス化
市議会資料のペーパーレス化
電子決裁、文書管理、勤怠管理
③事業効果の向上
ナッジ理論
④コミュニケーションの改革
チャットツールの活用
電話改革
BPRの実施
・先進地視察
・試行的導入
BPR実施方法の習得
ツール・ソフトの導入
アウトソーシング化
アナログ規制の点検・見直し
ルーティンワークをAIに任せる
システムの導入（類似システムの統一化を視野に入れる）
庁内でのモデルケースの作成
チャットツールの活用
携帯電話・録音の活用
BPRの内製化
庁内データベースの統一化・簡素化
職員でしなくて済む業務の切り分けができる
アナログ規制の撤廃
職員が創造的な業務に従事できる
・紙削減と業務効率化
・テレワークが可能
・公文書の保存スペース確保・適正な管理
無理のない誘導が可能になる
庁内の連絡手段の効率化・有効活用
・BPRを起点とした庁内業務の効率化がなされ、スマートシティ江津の基盤を形作られている
・人手が必要な業務に注力できる
・職員自らが課題に気づき、解決に向け行動できるようになる

| Assumption | Input | Activity | Output | Outcome | | Impact |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 課題認識・仮説 | だれに・どこに | どう働きかける | まずどうなって | 何が変わる | | ありたい姿 |
| | | | | 初期 | 長期 | |
| ③人と組織の改革に関すること | 市職員 | ①働き方改革<br>テレワークの導入 | システムの導入、運用方法の決定 | テレワークに付随し、オンライン会議が常態化する | 働き方の幅が広がる | ・「できることから」「行動変革」ができる市職員となっている<br>・市職員の働き方に多様な選択肢を与える（ワークライフバランスの充実）<br>・業務効率の向上<br>・行政機能の維持 |
| | | ②人材育成<br>職員研修制度の確立（全職員のITパスポートの合格） | 職員への周知、研修 | ・知識の習得<br>・DXに対する抵抗感のない雰囲気づくり | ・計画的なデジタル人材の育成<br>・DXに関する意識醸成 | |
| | | 課題の整理・解決能力の向上 | | 自分の課題の整理ができる | 他の職員の課題の整理ができる | |
| | | ③組織の在り方検討<br>スマートシティの実現（基盤となる組織体制の確立） | DX推進委員の設置 | DX推進委員の役割の理解 | DX推進委員を中心に職員全員が積極的な業務改革に取り組む | |

| Assumption | Input | Activity | Output | Outcome | | Impact |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 課題認識・仮説 | だれに・どこに | どう働きかける | まずどうなって | 何が変わる | | ありたい姿 |
| | | | | 初期 | 長期 | |
| ・江津市としての「ありたい姿」が不明確<br><br>・「ありたい姿」に近づく方法の検討や実行が不十分 | | ・職員の抱える課題や、市民や事業者の視点・体験などを集約し、江津市の「ありたい姿」を明確にする<br><br>・全職員が、何をすれば江津市の「ありたい姿」に近づけるかを検討し、実行する（アクションプランにも追記する） | | | | ? |